

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	インプロビゼーション4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要な資料はプリントを配布します。				
担当教員情報					
担当教員	篠崎 保		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
プロギタリストとして成長して行く、その前段階のテクニックを習得する講義。様々なジャンルの楽曲、ジャズの複雑なコード進行に対しても素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになる。ジャズ特有のスウィング感など、一人では中々体得できないノウハウを伝授する。左手と右手のタイミングが自らのトーンを決定することもあり、個性あるトーンが出すことを目的としてテクニックの習得を目指す。自分自身のパートアレンジは当然だが、他の楽器への幅広いアレンジ能力を磨き、将来の音楽に生かしてゆく。					
到達目標					
メロディアスなソロ・フレーズを作れるようになること、また、それを自分らしく表現し弾くことを目標とする。想定されたアレンジメントから変更された楽曲になったとしても、落ち着いて対応できるよう多くの知識の習得を目指す。状況に対しても焦らず対応できるミュージシャンになることを目標とする。楽曲に対して色々なスケール、フレーズ、パターン等を自由に組み合わせられることは、ギタリストとしての個性に繋がります。地道な作業であるが、日々のレッスン、そして、自宅での練習方法など自ら上達するマインドを獲得することも目標とする。					
教育方法等					
授業概要	さまざまなジャンルの課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、耳で聞いている音が、実際にどういう音階で構築されているのか、どういう和音構成で作られているのか、また、音色による感じ方の違いなど、常にリスナーを意識した音楽を届けるギタリストを育成していく。参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習を繰り返す。				
注意点	必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取る。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習して下さい。授業時間の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ナチュラルマイナースケール①		ナチュラルマイナースケールとペンタトニックスケールの構成音を比較する		
2回	ナチュラルマイナースケール②		スケール上の9th,b6thを意識したアドリブフレーズを理解する		
3回	ミクソリディアンスケール①		ミクソリディアンスケールの構成音を覚える、さまざまなポジションの構成音を覚える		
4回	ミクソリディアンスケール②		さまざまなポジションでミクソリディアンスケールアドリブソロを弾く		
5回	ハーモニックマイナースケール①		ハーモニックマイナースケールの構成音を覚える		
6回	ハーモニックマイナースケール②		ハーモニックマイナースケールを使った様々なフレーズを理解する		
7回	オルタードスケール①		ペンタトニック的オルタード・フレーズを理解する		
8回	オルタードスケール②		メロディック・マイナーからオルタード・スケールを覚える		
9回	オルタードスケール③		オルタードスケールを使用出来るコード進行を想定してアドリブを弾く		
10回	ディミニッシュスケール①		コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールの構成音を理解する		
11回	ディミニッシュスケール②		コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用できるコードを進行を理解する		
12回	アドリブソロを弾く①		ツー・ファイブ・ワンの練習		
13回	アドリブソロを弾く②		ダブル・ドミナント・モーションの練習		
14回	スケールを知る応用編①		ブルースコード進行、有名楽曲の伴奏に合わせてアドリブソロを弾く		
15回	スケールを知る応用編②		オルタードスケール、コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用したアドリブソロを弾く		